

第2回 横浜人形の家指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成27年9月9日（水） 13時00分～17時15分
- 2 場 所 横浜市役所 文化観光局 会議室（中区尾上町1－8 関内新井ビル6階）
- 3 出席者 長畑 周史 委員長、大加 章雅 委員、嶋田 昌子 委員、田中 操 委員、林 直輝 委員
- 4 欠席者 なし
- 4 開催形態 公開（傍聴者4名）
ただし本審査は非公開
- 5 議事内容

議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開 3 （議題1） ヒアリング 4 （議題2） 本審査
経 過	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 2 委員会の公開・非公開 【審議結果】 ・ 応募団体のヒアリングは公開で実施し、本審査は審査の公正性を担保するという観点から非公開で行うこととした。 3 ヒアリング 応募団体が提案内容についてのプレゼンテーションを20分間行い、その後、委員から質疑を行った。 【主な質疑事項】 (1)応募団体：京王エージェンシー・アートプレスト共同事業体 ・ 提案課題のうち「アイデア・ノウハウの提案」について、提案内容の詳細について説明して欲しい。 ⇒施設と地域の学校を結び付けていく。山下エリアの周辺コミュニティーの活性化を図るため、地元小学校の子どもたちとの交流を積極的に行う（課外授業など）。更に、観光拠点としての付加価値を高める取組なども行っていきたい。その他さまざまなアイデアが想定できる。 ・ 指定管理料提案について、市側の想定額と乖離があるが、どのような理由によるものか。また、提案内容を維持しつつ、この乖離を縮小出来る余地はあるのか。

⇒市が想定している指定管理料を上回っているのは、人件費増に伴う増及び今回の提案細目に対する原資としての活用を見込んでいるため。

提案内容を維持しつつこの乖離を圧縮するためには、費用圧縮か増収が必要。増収により、圧縮された費用を補っていく必要があるが、最大限与えられる金額の中で市の協力を得ながら前向きに取り組んでいきたい。

・3Dプリンターの活用等、新規事業の提案に係る費用は自主事業の費用の中に計上されているのか。

⇒自主事業及びその他の関連科目にも配分している。

・提案内容にある各自主事業に係る収入は、収支計画書の中には反映させていないのか。この部分が市の想定する指定管理料との乖離を縮小出来る要素になるという理解でよいか

⇒そのとおり。

・学芸員の雇用について、具体的に確保できる見込みはあるのか。また、人形の虫干しイベントに関する提案があったが、虫干しは必要なのか。

⇒現スタッフの中に有資格者がいる（現在OJTを受けている）。その他の人材についても現在選定中である。

収蔵庫は温度・湿度とも一定にできる仕様となっている。虫干しについては、あくまでイベントとしての提案で、デッドストックの披露の場と考えている。

・ひな人形の保管収納代行サービスに関する提案があるが、需要が本当にあるか疑問。

⇒実現性はあると認識している。

・多目的室の有効活用についての複数提案については、可能性を例示しているという認識で良いか。

⇒そのとおり。具体的施策というより、取組、方向性と理解して頂きたい。

・リピーター確保、入館者数増加に対する提案として、一番強く考えているものは何か

⇒あかいくつ劇場の活用（人形劇の定期開催）が大切と考えている。

・（京王やバンダイなどの）グループメリットは担保されるのか

⇒現在も、少ない経費で駅貼りポスターを掲出するなどのメリットがある。バンダイコンテンツの投入も可能。

・児童文化への取組をどのように考えているか。
⇒近隣幼稚園、保育園の先生たち向けの人形劇講座を今年度予定している。先生たちが子どもたちに教える環境も整えていきたい。

(2)応募団体：丹青社・東急コミュニティー共同事業体

・提案課題のうち「アイデア・ノウハウの提案」について、提案内容の詳細について説明して欲しい。

⇒多目的室・ギャラリーの有効活用については、講座・講習の実施、第2の企画展示室として活用していく。講座・講習については、(応募団体の) 自社カルチャースクールのプログラムの中から人形の家に合わせてものを実施する。他施設とのコラボレーションも検討している。その他、広報戦略については、ユニバーサルデザインを導入する。

・指定管理料提案について、市側の想定額と乖離があるが、どのような理由によるものか。また、提案内容を維持しつつ、この乖離を縮小出来る余地はあるのか。

⇒近年の収支状況と、純増要素(人件費や目的外使用料など)を考慮し、現在の金額は積算した。事業に係るコストはなるべく圧縮せず、設備の維持管理、事務管理、人件費等コストの見直しにより検討をしたい。また、外部資金の導入についても検討したい。交渉には是非応じさせてもらいたい。

・カルチャースクールは有料実施(自主事業)か。また、収益事業としての一番ポイントとなる点はどこか。

⇒スクールは有料で実施する。収益事業として大事なのは、集客できなければ施設の目的を達成できないという点で、そのためには広報の充実を重視したい。また、カフェやショップのみの利用目的の人がいても良いと考えている。

・常設展示について、提案された内容は現状の展示内容と大差無いように感じられるが、その点はどうか。

⇒自分たちは展示のプロを自負しており、展示の細かな作り込みや解説の案内等、見え方についてこだわって作りたいと考えている。現在の展示の一部は、あまり充実していない部分もある。

・学芸員については、有資格者である館長を含め2名体制ということか。

⇒そのとおり。

・ボランティアの活用についてはどうか。

⇒現状は把握していないが、もし現事業者がボランティアを活用しているのであれ

	<p>ば、引き続き活用していきたい。</p> <p>4 本審査 提案書類及びヒアリングに基づき審査を行った。</p> <p>【審査結果】 指定候補者：丹青社・東急コミュニティー共同事業体 得点：805点（満点1,000点（委員1人当あたり200点×5人））</p> <p>【審査における主な意見・講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定候補者となった団体は、人形保管の提案が専門的であることや、学芸員2名を配置している点など、事業計画に安心感がある。 ・多目的室やギャラリーの有効活用という課題に対し、具体的で実現性の高い解決提案があり、これを評価した。 ・提案している指定管理料が現状の収支差額に照らして大きくなっている。提案内容を踏まえ、今後協定締結に向けてしっかりと市は指定候補者と協議してほしい。
--	--

<p>審議結果</p>	<p>審査得点及び講評については、本日の結果及び意見を集約して報告書にまとめ、指定管理者の候補者（指定候補者）については横浜市長に報告する。</p>
-------------	--